



問 JR名松線の第一東山踏切の拡幅を

JR名松線の第一東山踏切の拡幅は、旧一志町政時代、一地区の課題ではなく町の飛躍につながる重要な課題として認識されていた。それは、三重県と共に構想した一志嬉野ICへの新設バイパスの起点となり、バイパスが通ることによって南北に弱い町内交通網の改善が図られ、工業団地の誘致につながるからである。大きな経済効果が期待できる当該踏切の拡幅について、津市の考えを問う。

答 現時点において拡幅する予定はない

津市の道路整備は、緊急輸送道路の形成や通学路の安全確保といった指標を総合的に評価して優先順位を決定しているが、当該踏切道は市町村合併時に策定した新市まちづくり計画にも現在の津市道路整備計画にも位置付けておらず、拡幅の予定はない。また、当該踏切は踏切道改良促進法に基づき国が指定する「改良すべき踏切」にも該当しておらず、事故が頻発するなどの問題も生じていないことから、直ちに改良が必要とも考えていない。企業誘致については、企業のニーズを把握した上で場所やインフラ整備を検討するため、道路整備を先に行うという手法は考えていない。

その他の質疑・質問

- 地域インフラの維持管理に係る原材料の支給について
- 津市公共施設等総合管理計画と廃校施設について
- 学校施設長寿命化改修事業における給排水設備の更新について

JR名松線の第一東山踏切



問 津市安濃交流会館を廃止することは大変問題が多く再考すべき

津市安濃交流会館は当時の安濃村による昭和47年の新築以来、温浴施設（あのを温泉）の開設、交流拠点としての施設整備などの経緯があり、特にあのを温泉は多くの市民に親しまれてきた。温泉は昨年より休業しているが、再開には現実的な方法があること、交流拠点としての役割は失われていないこと、諸室の入居テナントに多大な迷惑がかかることなど、6月末の廃止は拙速だ。

答 事実上機能していない施設を存続させることは難しい

安濃交流会館は、平成30年の安濃地域の公共施設再編により、温浴施設機能以外の機能を他施設に移し、温泉を生かした交流拠点として、温浴施設の経営改善に向け、諸室の利活用事業を行う等温浴施設の継続に取り組んできた。

しかし、営業再開には大規模な修繕を要し、温浴施設の継続が困難となったことを受け、事実上機能していない施設について、長期間、公の施設として存続させることは適当でないと考えている。

会館が廃止された後も、賃貸借期間満了日までには入居テナントの活動が継続することから、看板を設置するなど、市民への周知を行っていききたい。

その他の質疑・質問

- 学校給食の実施及び学校給食費の管理に関する条例を制定する理由と必要性について
- 給食会計を公会計に移行するメリットについて
- 千歳山の魅力を発信する事業に関連し、現地観察会など市民参加による取り組みを実施しては
- 避難所の生活環境の整備（特にトイレの確保・管理）に関する取り組みの現状と今後の予定は

左：津市安濃交流会館（休業中のあのを温泉）
右：安濃庁舎（安濃総合支所、安濃中公民館）

